

えどがわく ちめい
江戸川区の地名(3)

か さい
葛 西

「葛西」と「葛飾」の名前の由来

「葛西」という地名は、「^{しもうさのこくかつしかぐん}下総国葛飾郡」と呼ばれた地域の西部という意味です。「葛飾」は、奈良・平安時代の律令制の郡名であり、この地域は、現在の千葉縣市川市を中心として、西は隅田川、東は千葉縣^{しろい}白井市、北は埼玉縣^{くき}久喜市（旧栗橋町）・茨城縣古河市にまたがる広大な範囲でした。

古くは万葉集にも勝鹿・勝牡鹿・可豆思賀などの表記で登場し、^{しょうそういん}正倉院に残された^{ようろう}養老5年(721)の戸籍には「^{おおしまごう}下総國葛飾郡^{しままた}大嶋郷」として、^{こうわ}嶋俣・^{りめい}甲和・仲村の三つの里名が記されていました。これらの里の場所については、嶋俣は現在の葛飾区柴又、甲和は江戸川区小岩から南の地域ではないかといわれています。

昔の葛西

11世紀頃、葛飾郡は現在の江戸川(当時は^{ふといがわ}太日河といい、^{わたらせがわ}渡良瀬川の下流)を境にして分割され、西側は「葛西」、東側は^{かつとう}「葛東」といわれていました。

当時の葛西は、墨田・江東・葛飾・江戸川・足立区と、埼玉縣の東端一帯を指しました。埼玉縣から足立区を流れる「葛西用水」などに、かつての葛西の範囲の名残がみられます。

平安時代後期、^{かんむへいし}桓武平氏の^{としま}豊島氏がこの葛西の地に入って「葛西氏」を名乗り、この地を^{かさいみくりや}「葛西御厨」（解説シートNo.1-8参照）として伊勢神宮に寄進し、実質的に支配しました。



葛西城址公園

葛飾区青戸七丁目には戦国時代、小田原北条氏が下総進出の拠点とした「葛西城」の跡があり、現在その一部は「葛西城址公園」となっています。

現在の葛西

明治22年(1889)の町村制施行により、江戸川区内は10カ村に統合され、新川の南側の桑川村・長島村・東宇喜田村・西宇喜田村が「葛西村」となりました。これにより「葛西」は、江戸川区南部の地名を指すようになりました。

昭和44年(1969)に営団地下鉄東西線が開通すると、葛西駅を中心に街は住宅地へと変わり、同54年(1979)には西葛西駅も開業して、この地域は大きく変貌しました。

また葛西浦(東京湾の葛西沖)は埋め立てられ、清新町と臨海町が誕生しました。



葛西駅前(風車型の区画整理記念碑)

昭和58年(1983)隣接する浦安市に東京ディズニーランドがオープンしました。同63年(1988)から平成元年(1989)にかけてJR京葉線の葛西臨海公園駅、首都高速道路の葛西ジャンクション、葛西臨海公園・葛西臨海水族園が相次いで完成し、都心からアクセスのよい新名所として、広く知られるようになりました。

現在、葛西地区には、江戸川区人口の約3分の1にあたる約25万人が暮らしており、「葛西」の地名は江戸川区南部を指す地名として定着しています。

その他の葛西の話

葛飾区金町の葛西神社は、葛西三郎清重が元暦2年(1185)に、葛西33郷の総鎮守として下総国香取神宮を勧請したのが始まりとされます。この神社発祥の神楽囃子は、江戸時代に東葛西領内から江戸市中まで普及し、「葛西囃子」とよばれました。江戸川区の香取神社(中央四丁目：旧西小松川村)境内には、「葛西囃子之碑」が建てられています。

江戸時代、このあたりは「葛西筋」といわれた幕府の鷹場でもありました。明治維新後もしばらくは、広い意味での「葛西」の地域名が使われ、明治9年(1876)東小松川村の善照寺に開校した江戸川区最初の公立学校を「葛西学校」といいました。

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)